

# 刻む会

## たより

No.30

2005. 6. 24

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局

宇部市常盤町一―一九（宇部緑橋教会内）

TEL 〇八三六（二一）八〇〇三

韓国・真相究明法と長生炭鉱

山内 弘恵

既に、新聞等でご存じの方も多いと思われ  
ますが、二〇〇四年三月、韓国の国内法とし  
て「日帝強制占領下強制動員被害真相究明等  
に関する特別法」（いわゆる「真相究明法」）  
が制定されました。この法律は、日帝強制占  
領下強制動員被害の真相を究明し、歴史の真  
実を明らかにすることを目的とした、韓国政  
府の手で戦後処理を行うというものです。具  
体的な動きとしては、この法律に基づいて、  
韓国国務総理直屬下に日帝強制占領下強制  
動員被害真相究明委員会（以下「真相究明委  
員会」という）を設置し、被害の実態を調査

するために、既に活動を開始しており、今年

申栄淑「真相究明委員会」調査二課長より、

二月より真相調査の申請及び被害申告の受  
付が開始されています。申請は韓国国内のみな  
らず、日本国内在住の方からも受け付けられ  
ており、四月初めには既に一〇万件を超す申  
請がなされております。この法律は、最初の  
真相調査開始決定から二年間以内に調査を  
完了しなければならぬ（最大一年の延長可  
能）とされています。

シモンズ  
申栄淑「真相究明委員会」調査二課長より、  
現状報告と今後の方向性について報告を頂  
きました（資料参照）。また、このフォーラ  
ムの前日には、予備調査という形で長生炭鉱  
跡地を視察されました。  
私たち「刻む会」にとってもこの法律の施  
行により、これまで暗礁に乗り上げていた事  
実調査・追悼碑建立に向けて一筋の光が見え  
た気がします。しかしながら、私たちは、日

四月二三日には、この真相究明委員会のメ  
ンバーを招いて「刻む会」・山口県朝鮮人強  
制連行真相調査団・韓国民団宇部支部・総連  
宇部小野田支部との共同主催でフォーラム  
を開催しました。このフォーラムにおいて、

本政府がこれら真相調査及び慰霊事業の実  
現にあたって、誠実に対応するよう働きか  
ける必要があると思います。今後の動きに注  
目したいと思います。

# 4.23フォーラム



## ☆基調報告

島敏史（長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会）

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会の十三年を振り返り、事故の概要から「刻む会」発足について及び事実調査・追悼式を行うに至る過程など、これまでの「刻む会」の活動を紹介・報告。



## ☆遺族会報告

金亨洙（日本長生炭鉱犠牲者大韓民国遺族会会長）



## ☆真相究明委員会報告

申栄淑（韓国真相調査委員会・調査2課長）  
（4、5ページの資料参照）



## ☆国連報告

洪祥進（朝鮮人強制連行真相調査団）  
遺骨放置の法的責任について、国連人権委員会（ジュネーブ）での日本に対する集中非難の現状について報告。





帳、または埋火葬認許証名簿等をもって遺族と本人の名前さがし事業を進めている。

日帝強制占領時代の本籍や創始改名された名前で遺族と韓国名をさがし出すことは並大抵のことではない。人道主義的次元で進めるべき遺骨奉還は遺族の意思が最優先であるので、そのような作業が先行されなければならないのである。

解放され60年が過ぎた今でも無念にも犠牲になった当事者達は故国に帰るどころか、自分の名前すらさがせないまま誰にも知られず、日本各地に放置されているという事実は実に悲劇的な歴史と反証している。

その間、在日朝鮮人民間団体や、宗教界で長い間、調査し韓国への奉還も何回かなされたことがある。彼らの苦勞と成果に対し、深く感謝しながら、この事業がもっと組織的かつ体系的に推し進めることが、できなかつたために、まだ総体的な真相については、多くの課題が残されている。

委員会は今からでも民間団体の業績を土台にし、より体系的な調査を進めることに最善を尽くすつもりである。その間、国家がこの問題に関し十分にお世話できなかった国民の痛みと苦痛を治癒し、慰勞する道をさがすため、委員会は総力を尽くしたい。

委員会は歴史の真実を究明する事業が、二度とこのような大きな過ち（日帝強制占領から戦時犯罪まで）が繰り返されないようにすることは、もちろん過去の被害、または犠牲者達だけの問題として終わることではなく私たち、皆の問題、現在と未来にかかわる歴史の問題として深く認識されることに寄与した。

すなわち遺骨は最小限1931年から1945年間の軍人、軍属、労働者（女子挺身隊を含む）、そして“慰安婦”女性問題等、強制動員による被害者すべてに該当する。彼らは日帝の全植民地、占領地の激戦地を始め、動員された大部分の作業場等、全域に渡り、埋もれているであろう。

彼らが動員された原因、動員過程と抑圧的な現地生活、そして死亡原因、死亡後処理過程、埋葬または火葬後安置過程、そして現在までの放置原因と実態、このすべての事について、明らかな調査がなされなければならない。

当然、調査が先行された後、奉還される事が犠牲者と遺族のたつての願いであるし、その時、初めて彼らの名誉が回復されると信ずる。

しかし遺憾ながら、私たちはその準備がまだ十分ではない。まだ、その第一歩を踏み出したにすぎない。今一つずつ準備をしている途中である。

すでに60年が過ぎ、やっとその調査を始めた事、自体がそれを代弁しているのではないだろうか。

日本は自国の犠牲者に対しては、長い間に渡り、本国に帰国できるよう政府が先頭に立ち努力してきたし、その成果が大きい事を知っている。

今からでも日本が被害国の奉還問題に積極的に協力されることを求め、無条件の奉還ではなく、ありのままの真相がわかるよう資料と情報を提供し、政治的取引きではなく、真の人道主義実現のための奉還ができるようにしなければならない。

このため、本委員会が今後、最善を尽くす事を約束する一方、すでに受け付けた件に対し、一定の基準に従い、犠牲者と遺族を判定すべき業務が基礎調査から、面接、関連証明書類、研究実績等を通じた一切の調査が非常に多い。それだけではなく、真相調査もまた、事案により膨大な調査研究活動が伴わなければならない。

しかし、このような状況を打開することがまさに委員会がはたすべき任務であり、私たちは力を一つにし、遂行できると信じている。

## 『日帝強制占領下強制動員被害真相究明委員会』の役割と遺骨問題

申<sup>シン</sup> 栄<sup>ヨンスク</sup>淑 「真相究明委」調査2課長

「日帝強制占領下強制動員被害真相究明に関する特別法」が制定（2004年3月5日）、施行令が9月1日公布された後、去年11月委員会が発足した。

委員会全基浩<sup>チョンギホ</sup>ほか、法務部、行政自治部長官、國務調整室長（以上専従）、金カンヨル、リジュンソク、鄭鎮星教授、張完翼弁護士が委員として委嘱され委員会が構成された。

また、実務スタッフとして崔奉泰<sup>チェボンテ</sup>事務局長4課調査チーム等、70余名が委員会業務を担当するようになった。

実際の活動は2005年2月1日から、専門委員と調査委員等、関連専門家が委員会に加わることによって始まった。

4課は調査業務を支援する行政と他、調査総監課は日帝強制占領下強制動員被害真相調査総合計画の立案、施行、強制動員軍人及び軍属等に対する真相調査等を担当し、調査1課は強制動員労働者に対する真相調査と資料の電算管理、史料館及び歴史記念館建立に関する業務を担当する。

調査2課は強制動員、軍”慰安婦”に対する真相調査と、遺骸発掘及び収集奉還そして追慕史料館の造成に関する事業を遂行するように分けられている。

このような本委員会の主要活動は日帝強制占領下の強制動員被害の真相調査、被害関連国内外資料の収集に関する事項、犠牲者及び遺族の審査、決定、史料館及び追慕施設造成に関する事項、そのほか戸籍登載に関する事項等である。

その中でも主な業務は個人的な被害申告受付、真相調査申請、そして職権調査等の方法で調査事業を進め、被害事実を究明し歴史に残すことである。

その結果、個人的には犠牲者と遺族の名誉を回復し、隠されていた事実の真相を明らかにすることによって、それが望ましい韓日関係を構築し、和解と平和を志向する歴史の教訓になると信じている。

被害申告受付は、委員会だけではなくソウル特別市を含め、16市道実務委員会と全国市郡区単位自治行政課で担当しているが、2月1日から始まった受付が、4月初めには10万件を超えた。6月末までの一次申告期間中、もっとも多くの被害申告があるものと予想される。

また、真相調査申請は、たとえば犠牲者本人もしくは遺族の意思とは関係なく合祀された遺骨問題、または1948年奉還された遺骨の行方等、16件の調査申請が寄せられている。

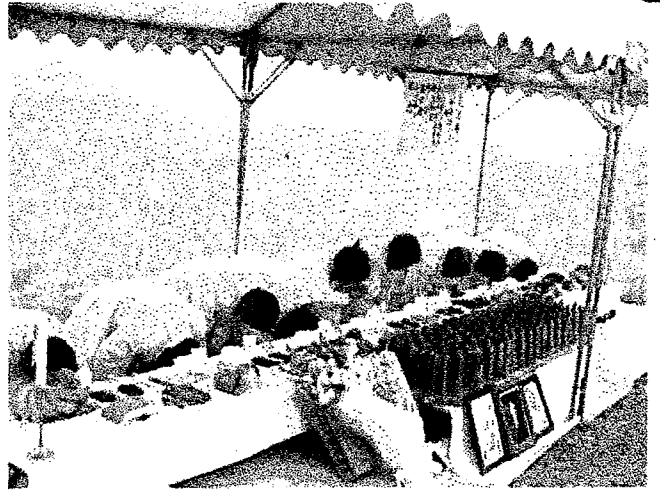
委員会は調査活動を効果的に進めるために去る2月に委員長、事務局長一行が日本を訪問。韓日遺骨実態調査委員会を設置し、両国協力のもとに真相及び実態調査と奉還が実現できるよう日本側に提案したことがある。

これは韓国政府が2005年解放60周年を迎え、2004年末から持続的にこの問題に対する解決を日本と協議していくことを明らかにした発言と関連している。

日本側も韓日間の外交次元でこれだけは協力する意志を明らかにしたことがある。こうしてみると委員会事業の頂点がまさに遺骸問題なからうかと、言われるほど急を要する関心事としてクローズアップされている。

同時に委員会は2月に訪問した北海道西本願寺札幌別院の遺骨名簿と過去

# 2005年追悼式



☆一月二八日(金) 遺族来日

県庁・宇都市訪問

※この日、全錫虎チョンソクホ氏が、かつて通っていた西  
岐波小学校を訪れる。

☆一月二九日(土)

追悼式・遺族を囲む集い・懇親会

☆一月三〇日(日)

門司観光・遺族帰国



全錫虎チョンソクホ氏の母親であり、事故犠牲者の妻千谷之チヨニコクヂ氏が年末に亡くなられたと伝えられた。そのため、今回の追悼式では、長年尽力を尽くされた李元宰氏の遺影と共に、千谷之氏とその夫であり、事故の犠牲者である全成道チョンソンド氏の遺影が祭壇に供えられた。

## 来日遺族名簿

遺族氏名	続柄	犠牲者名
キム ヒョンス 金 亨洙	甥	金 四郎
ナン ヒュン 揚 玄	甥	揚 王守
チン ソクホ 全 錫虎	息子	全 成道
パク ジョンスン	息子の妻	〃
チン ソク 全 ソク	息子	〃
キム ミンオク	息子の妻	〃
チン ジョンス 崔 正秀	息子	崔 泰龍
チン グムソク 崔 今碩	娘	〃
キム ジンファン 金 鎮晃	息子	金 東煥
チン テウン 崔 泰雄	息子	崔 陽海
パク ヒョンモ 朴 亨模	息子	朴 サンウン

## 弔 辞

地下にいらっしやるお父さん、数日前もまた一人遺族をお父さんの元へ送りました。

地下にいらっしやるお父さんに会いたくて、徐々にお父さんのそばにひとり二人行っています。

周囲を見回して下さい。毎年この地で私たちを激励して下さった、李元宰さんが既にお父さんのそばに去っていきました。

今は故郷には遺族の一世帯は幾人も残っていません。全ての人達がお父さんのそばへ去っていきました。いや、お父さんが連れて行きました。あまりにも違いたくて……あまりにもやるせなくて……。お父さんが連れていきました。

お父さん、お父さんのそばに行った全ての人達にお会いしましたか？

彼らからこの宇部の話を聞きかされたでしょうか？

今日もこちらの海洋に歴史を正しく刻む会の会員と、善良なる日本の方々が、その日、その時の出来事を語り、お父さんに慰霊祭を捧げます。

お父さん、この世を去って半世紀。ここで、慰霊祭を捧げて10数年。毎年、ここに集まった人は数千人、数多く物語り、数多くのことがあり、数多くの方々が心を痛めています。お父さん、聞きましたか？遺族達の壮絶な泣き叫びを！

お父さんは聞きましたか？山口県の方々の弁解など……

それでも日本の総理は過去のこととは忘れて未来に向かおうと話をしています。

私たちは記憶します。過ぎし半世紀の間にごんな出来ことがあったのか、はっきり記憶しておきます。彼らが真実に反省するその日まで。

時間が過ぎれば今日吹く冷たい風は暖かい春風に変わるけれども、私たちの心にはいつ

春風が吹いてくるでしょうか？

お父さん、寒く暗い坑道の中にいらっしやるけれども、こちらでは心の温かい人たちが集まって、それほどわびしく寒くはありません。お父さんがいるところが何処であっても私たちは共に行きたいのです。

私たちと共に故郷の裏山にいて、手に手をにぎり今日を語る日が来るまで、お元気でいて下さい。

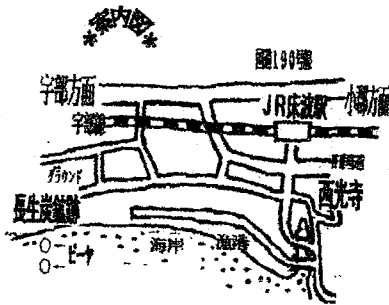
2005年1月29日

日本長生炭鉱犠牲者大韓民国遺族会代表

楊玄



# 海に沈んだ炭鉱 ワールドワーク



海岸でピーヤを見ながら献花をしている様子です↑

日時：2005年

7月30日(土)

午前10時～

場所：宇部市西岐波西光寺にて  
内容：参加者全員で位牌を並べる・

紙芝居・ビデオ上映・献花

参加費無料！是非ご参加下さい。

紙芝居「アボジは海の底」のデモテープが出来ました！

このテープは奈良県大和高田市で活動しているケクリ・オリニ会の金子さんが、この会の子どもたちと共に、長年苦労されて作られたものです。実は、ビデオ編集していたパソコンが故障し、テープを失うなどのアクシデントに見舞われながら、何とかテープを修復し、原画を元に作った画像、新しく作成して挿入した画像（併せて250枚程度）で編集されております。音の方は、とりあえず挿入した段階で、調整途中のため、音が不安定なところもありますが、紙芝居とはまた違った「アボジは海の底」を見るこゝが出来ます。

このビデオはまだ完成品ではありませんので、販売することはできませんが、見てみたいと思われる方は、是非事務局までご一報下さい。貸し出ししたいと思います。